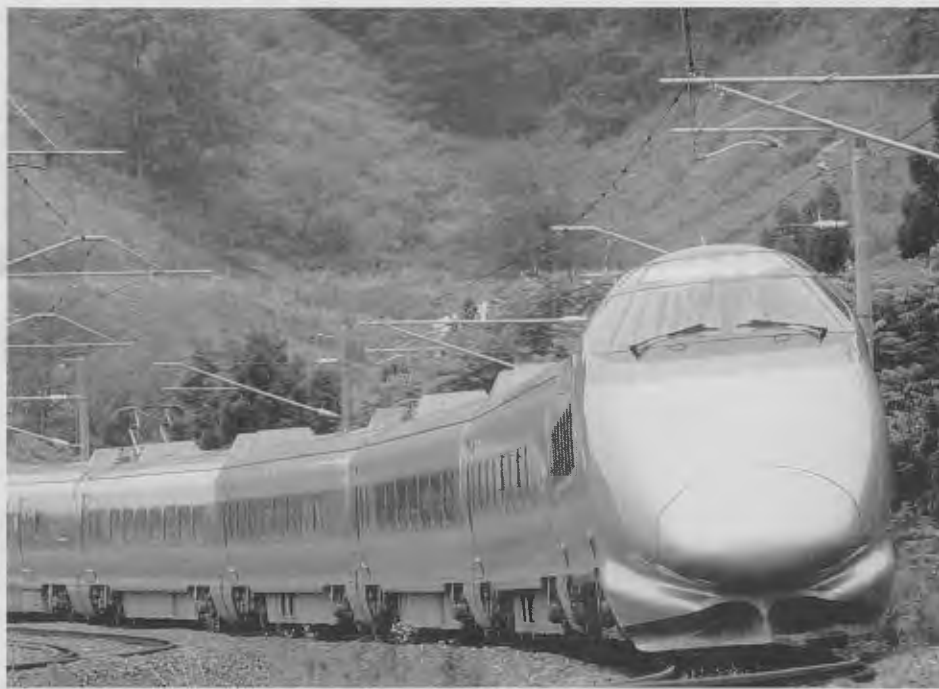


東京鷹桜同窓会報



森を縫い 銀の蚕が 夏開く

山形新幹線「つばさ」／東日本旅客鉄道株式会社 提供

巻頭の言葉

土屋 東一

東京鷹桜同窓会事務局長
弁護士



事務局長を仰せ付かってはや7年、この間85年のプラザ合意、86年の円高不況、87年のブラックマンデー（株式大暴落）、にも拘わらず平成景気という名の好景気が日本全土を浮かれたたせたものの、90年8月には湾岸危機の到来とともに、一転してバブル崩壊イコール不動産・株式不況に陥るという具合で、有為転変に驚くばかりです。職業がら、十指に余るバブル崩壊の後始末の案件を抱えて不況感を先取りし、それがいよいよ市民生活に波及する段階に入ってきたことを感じる昨今ですが、怯えてばかりいる訳にもいきませんから、せめて気分だけでも盛り上げられないものでしょうか。

このような時こそ、年齢や立場を越えて集い、語り励まし合う必要がありますし、母校や郷里という共通項を軸にし、感慨を共有する同窓会の存在意義があらうとも思われます。90年会報のこの欄で高橋副会長が述べておられる事務局メンバーの10年刻みの更新の時期も近付いてきましたし、これも含めて会員全員気分を一新し、従前以上に有意義な同窓会活動を進めていきたいものです。



今、歴史の目撃者として

わが道を行く

横山三四郎

戸板女子短期大学教授

ジャーナリスト



将来、私はいったい何者になるのだろう——長井南高校への行き帰り、最上川の土手道の草いさきれの中で、こんなことを考えながら懸命にペダルを踏んでいた。

「わが道をやく」の執筆を依頼されたとき、今泉から自転車で通学していたころの自分の姿を昨日のように思い出した。あれからもう三十数年にもなる…。

なかなか進路が決まらず、それならば自分にふさわしい職業がはっきりしてくるまで決断を先延ばししよう、ということで受験したのが、上智大学仏語学科。語学をやっていたれば職業の幅も自然と広がってくるだろうと考えての上京だった。

何げない選択だった。しかし、言葉というものは不思議なもので、これが私に世界への扉を開いてくれるのである。

大学四年の時が東京オリンピック。どこも外国語の使い手を求めている。その中で当時は躍進の気配を見せていた産経新聞に入った。そのときも職業という意識は薄く、何でも見てやろうという気持ちが強かった。どうやら私はどこまでもモトリアム人間らしい。

それでも記者という仕事は性に合っていたようで、地方と社会部でいわゆる駆け出し記者を十年、結婚してすぐ外信部に移籍した。外信部記者は特派員になる可能性が高いので、身を固めないとなかなか移れないのである。事件記者のテレビ番組が人気のころで、私は世界中を駆ける国際事件記者になりたいと思った。

外信部に移ったのは昭和50年でちょうどベトナム戦争が終わった年、私は早速、戦後の東南アジア諸国五カ国の取材に派遣された。いわゆる移動特派員である。

妙なことだが、これを皮切りに私の取材地は西へ西へと進む。それも南の発展途上の国々ばかりで、イスラム教国が多い。ASEAN 諸国歴訪に続いて、インド、パキスタン、ネパール、アフガニ

スタンなどのインド亜大陸を取材して帰国後間もなく、テヘランの様子がおかしいというので革命前夜のイランに急派された。さらにこの縁で昭和55年から三年間、中東特派員（カイロ支局）としてイラン・イラク戦争、イスラエルのレバノン侵攻などを取材することになる。

戦争に遭遇するのは新聞記者にとってラッキーなことだといわれる。国家と国家が存亡を賭けて戦う戦争というものがドラマチックで、それを報道できるのは記者冥利に尽きるということらしいが、そんな戦争を二つも取材できた私はついていたというべきだろうか。

だが、刺激が強すぎるのも善し悪しだ。革命や戦争の取材ばかりをしているうちに感性がささくれ立ってしまったらしい。普通のニュースが面白くなくなって、一年間休職してワシントンに留学、地球の出来事を別の視点からじっくり見守った。

そして平成1年からはロンドン支局長。記者としてはどこまでもついているようで、私は平成3年3月に帰国するまでにベルリンの壁の崩壊からソ連・東欧の激動をつぶさに取材することになった。それも私の古戦場であるベルシャ湾を舞台にした湾岸戦争というおまけ付きである。

いわば「歴史の終わり」をヨーロッパで目撃した私は、教育者で戦後間もなく長井高校でも教鞭をとったことのある父（横山保）の死（2年12月）を機に、かねてからの誘いがあった大学に転職した。しばらくはこれまでの積み重ねを社会に還元しようと筆を進めており、一冊はこのほど「二十のEC物語」（文藝春秋社）の題で出版した。

これからは教壇に立つかわら、日本の民主主義の仕組みの足腰を強くするためシンクタンクのようなものを創ってみたい。私は国家の秩序がガラガラと崩れる場面を何度か目撃してきたが、日本の民主主義制度も十分強固だとは見ていない。一般の人々と為政者の間の意思の疎通を太く円滑にする仕掛けがもっと様々に必要ではないかと考えている。

(昭36年卒)

先生お元気ですか

口重く言葉少なく

大道寺邦彦先生

(英語)



大学を終え、母校の長井南高校に赴任したのが昭和41年。恩師達の中にあつて生意気な言辭を弄しつつ勤続すること10年。その後、興譲館(ここで腰を痛めた)や工業や県を経て、今また母校に戻つて3年目。もう担任はしていないが、昔は2度卒業生を出した。この原稿を依頼してきた遠藤剛君は2度目の卒業生である。その後、1年の担任をしたが、転勤となった。

教え子の諸君が、今では社会の有為なる中堅層として、各界で活躍しているのを見聞きするのは楽しい。在校当時は夢にも希望にも満ち溢れていた諸君だが、実のところ、今は仕事疲れとか所帯疲れをしていないだろうか。そういうときには昔の仲間と会って若返るに限ると思う。

教え子の諸君が、今では社会の有為なる中堅層として、各界で活躍しているのを見聞きするのは楽しい。在校当時は夢にも希望にも満ち溢れていた諸君だが、実のところ、今は仕事疲れとか所帯疲れをしていないだろうか。そういうときには昔の仲間と会って若返るに限ると思う。

当時の長高は、進学者も今よりはるかに少なく、牧歌的な雰囲気を漂わせていた。この雰囲気は今でも変わりがなく、そのことが進学校として上昇した本校のネックとなっている。

今、高校には学校5日制、新教育課程、生涯学習、国際理解、単位制高校等々の大問題が短期間に集中的に押し寄せて来ており、その対処に頭の痛い日々を送っている現状です。私も1人のOBとして、生徒や地域を見つめ、時代や未来を考えて、この母校を間違いない方向に、そしてより発展する方向に向けていく責任の一端を担っており、近頃は口重く言葉少ない生活をしています。

昔のようにのんびりと教え、語らった方が後々によい人物を創り出すことになるのか。はたまた今のように、のんびりした中でもギリギリ指導するのがよいのか。或はさてまた、古い雰囲気を何らかの方法で棄て去り、キビキビした骨太い性格の上に勉強をピンピン仕込むのがよいのか。

この選択すら明確なようでいて中々答えの出しにくいものである。今年で50才になる私ですが、迷いは益々深まるばかりです。

出会いは人生の宝

高橋静夫先生

(生物)



新卒採用で赴任したのが、新潟沖地震、東京オリンピックのあった昭和39年でした。赴任と同時に担任を命ぜられ、新入生と一緒に入学式で聞いた奥山政雄校長先生の式辞の中の「萬物我備」の教育方針は、教員を志した私にとっても感銘を受けるお話でした。以来、「萬物我備」の精神は、私の教員としての基本理念としてまいりました。

12年間、草苗ヶ原での多くの方々との出会い、数えきれない思い出は、私にとっての心の宝です。中でも、市内十日町の旧家、丸大さん宅(長沼孝三先生の生家)での下宿生活や、旧校舎の理科室での後藤秀夫、八木孝一、水野多門先生方との研究授業や研修会など、社会人として、教員としての資質を身につける多くの体験ができました。

12年間、草苗ヶ原での多くの方々との出会い、数えきれない思い出は、私にとっての心の宝です。

中でも、市内十日町の旧家、丸大さん宅(長沼孝三先生の生家)での下宿生活や、旧校舎の理科室での後藤秀夫、八木孝一、水野多門先生方との研究授業や研修会など、社会人として、教員としての資質を身につける多くの体験ができました。

まさしく、現在実施されている初任者研修以上のことを体験できました。

その後、朝日分校に2年勤務し、県立博物館に8年勤務しました。博物館では、赴任早々、大海牛(草食の海生哺乳動物)の化石に出会い、ほとんどこの研究をさせていただきました。

大海牛化石は、大江町の最上川の河床の岩盤から小学生が発見したもので、当初、クジラの化石と考えていました。調査、研究を進めた結果、日本では初めて、世界でもこの時代の大海牛は初めてであることが判明し、ヤマガタダイカイギュウ(学名 *Dusisiren dewana* T. D. & S) と命名。

ヤマガタダイカイギュウは、アメリカで発見された約1200万年前の歯と前肢の指を持ったジョルダンカイギュウと約400万年前の歯と前肢の指が退化してなくなったクエスタカイギュウの中間の種であることが判明しました。海牛の進化を解き明かす化石として、世界的に注目されました。化石は、山形県の宝として県立博物館に保管されています。

最後に、鷹桜会東京支部の方々の御健勝を心からお祈り申し上げます。

あの日 あの頃



35年ぶりの田植

時 田 威

株式会社ファミリーマート

店舗運営部 店舗管理部長



小学3年から中学3年迄の間、毎年田植を手伝った。腰を曲げての田植や暑い最中の田の草取りの辛さは、今でも思い出される。

春、雪が田畑から溶けてなくなるのは3月の中旬であった。3月に入ると松川の猫柳が雪の間から飛び出し、銀白色の花を咲かせ春を知らせてくれる。まだ山々は雪で覆われている。

4月に入ると苗代作りである。土を耕し、水を入れ、土をかきまぜドロドロにして苗代はでき上る。次に種籾を一晚風呂（ぬるま湯）に入れておく。そうすると種籾から小さな芽と根が出てくる。それを苗代に播くのである。その上に病虫害防止に焼いた籾殻を振り撒く。昔はビニール等はないので、水をたっぷり入れ、ある程度大きくなるまで、霜にやられないように毎日見廻り水の量に注意した。一方、田圃の方は牛を使って土を耕し田植の準備をする。この作業は近くで牛を飼っている人にやってもらっていた。苗代の苗が4寸程に育つといよいよ田植が始まる。田植をするには4～5日前に水を入れ、耕した土にたっぷり水と水を吸わせ、ドロドロのアンコにすることが必要だ。

私の役目は牛を先導し引張っていくことで、牛の鼻につけた金輪に紐で棒を結びその棒で牛を引張っていく。牛の飼主は後ろにつけた道具で土を砕きドロにしていく。田圃を何度も何度も廻り土と水をまぜ合わせるのだ。ドロにしないと植えにくく田植が早くできず、又稲の根の伸びが悪く育ちが悪くなってしまふ。「オーハイヨー」と時折掛声を掛けながら田圃の中を廻り歩く。この作業は田植の前日又は田植直前に終らせる。この牛の先導も田圃の数が増えるに従って半分眠りながらの時もあり、隣の田圃へ行きそうになる。しかし牛はのんびりと動いてくれるので、あまり失敗はなかった。程良い段階で板をつけ田圃のドロを平にしていく。これで田植の準備完了である。一方苗代では苗取り作業中である。適当な大きさに束

ねて明日の田植を待つばかりとなる。痛痒いので足を見ると縞模様大きな蛭が血を吸っている。

いよいよ田植の朝である。母と5時半に起きて朝食と昼のおにぎりの準備をする。女の子のいない我家では、末子の私が毎日母に起こされ掃除と朝食の準備である。9年間あまり文句も言わず頑張ったものである。8時からいよいよ田植となる。年によって異なったが、父母と兄二人、手伝人と私の6人で田植をやった。まず田圃に縄を張り苗の束を投げ、散しておく。そして縄に沿いながら一人四列ずつ植えながら後方へ移動する。植え方は地域により前進型、横移動型等があるが、後方移動型が一番早いように思う。

母は田植えをさせると性格がわかると言っていた。父は遅いが一直線に植えている。これは頑固で融通が利かないタイプだとこっそり教えてくれた。そしてお前はもつと融通の利く人間になれと言われたが、無口で融通が利かない所は親父にそっくりで「脱親父」はできなかった。亡き父母は天国で笑っているかもしれない。

最初の列を植え終るころはまだまだ腰も元気であるが二列目三列目と進むに従って、途中で腰の伸びが多くなり、休憩ともなると近くの草むらに倒れ込んで腰を伸ばしたものである。我家は2反程度の田圃しかなかったが、それでも稲を育てるのは大変なことであった。山間部では開墾し田圃を作ったところが多い。減反政策で今は藪となっているのがほとんど聞く。戦後の食糧難を供出で支えたのは農家である。経済の基盤を支えながら決して恵まれていない。しかし私は35年ぶりに田植をすることになってしまった。義父が一人になってしまったからである。天城の山間部の段々の田圃を3枚毎年植えることにした。後継者問題が老人の一人暮らし問題と結びつく。明日は我身と考えながら今は月一回家の掃除と畑と元は田圃の草刈りに行っている。一日田植をすると一週間腰が痛む。草刈りをするると草臥れる。しかしかく汗は清々しい。

(昭35年卒)

あのひと

このひと



貴重な財産

青木 由行

日本アイビーエム株式会社

昔、長井市街に登城町と呼ばれる地区がありました。その界限には、旧長井北高や図書館そして登城町由来の小桜城跡などがあり、当時小学生の私にとって恰好の遊び場であったことを思い出します。その私も今は42才となり、故郷を思い出させてくれるのは高校野球とさくらんぼに東京鷹桜同窓会となりました。中学から社会人野球までの野球生活を振り返ると、長井高校時代に諸先輩方より教わったことや動機付けされたことが後々大変役立ったように思います。昭和41年の豪雪のため春休みにグラウンドの雪消しをやったこと、翌年の県南水害によりグラウンド一面が湖のようになったこと、冬の幸来橋までの長靴ランニングなどが今は懐かしい思い出となっています。また当時の長井高校で講演された著名人で今でも記憶に残っているのが、宮城音弥先生と犬養道子女史です。宮城先生は、心についてをご講演なさいました。犬養女史は訪欧経験よりアグリカルチャーにかけて文化というものを論じられました。

両氏の講演は、多感な私にとって非常に興味深くかつ、強烈なインパクトを与えるものでした。それは、大袈裟ではありますが、私の人生観についての所見をいただいたような気がしました。

一方、野球関係では、某先輩のご尽力により、甲子園優勝校・主将（当時）のコーチを得ることができたのもこの頃でした。

日々にな数少なくなる高校時代の思い出ですが、長井高校で得られた出会いや体験は貴重な財産となっています。

今は、プロジェクト推進に追われる毎日ですが皆様に会える日を楽しみに邁進しております。

(昭44年卒)



聞き上手を心がけて

柏谷 久子

私の住んでいるところは、2000余の世帯をかかえる団地です。高齢化社会を象徴するように周りには私より年代の高い人達が多く目立ってきました。個人主義・平等意識が浸透し、自治会も確立し、生活のし易さは極めて至便でスマートです。しかし、多くの人達は概して淋しさや不満をおし殺しているように思います。時折、電話がきたり、スーパーで会ったりしますと、相槌を打つ間もなく止めどなく話題が飛び出します。内容は自分のおかれた境遇や考え方でそれぞれ違いますが、共通していることは、饒舌で一方向的に聞いてもらいたい人がほとんどだということです。中にはきちんと物ごとを本質的に見極めた意見をもった方もいますがそんなときはとてもすばらしい充実感と幸せな気分になれますが、無意識のうちにどういうわけか私はいつも聞かされる立場に立っているのです。

先日、京王線に乗りました。座席にいた女の子が「どうぞおかけください」と立ち上りました。ピンとこないので周囲を見ましたが対象になるような年輩の人は見当りません。紛れもなく私に譲ってくれたのです。老後ならぬ老中の範ちゅうに仲間入りなのだとか合点のいかない(?)一幕でした。もちろん女の子には最大笑顔で感謝しつつ、どんな顔をして座ったものかとお尻を少し浮かし気味にかけました。

年相応ということは、見る立場でこんなにも違うものなのです。

これから先もいろんな人とかかわり合いの中で私は話し上手よりも聞き上手を心がけたいと願っていますが、エネルギーの要ることですか？

(昭33年卒)

千鷹桜通信

高橋清蔵(大14年卒) 御親切な御案内状をいただき感謝申し上げます。ここ数年来、町の健康相談の仕事を受けて、毎月10日20日30日の3回医療奉仕の活動を続けておりますので欠席いたします。尚、9月27日秋の彼岸の墓参に帰郷の折、高校を訪ね校長先生が不在で教頭の高橋実先生にお会いしてまいりました。

須藤軍二(昭4年卒) 残念ながら欠席です。交通事故の後遺症で大腿部が不自由ですが、どうか元気で暮らしています。

村田とし子(昭10年卒) 会報10号をいただきました。久し振りに皆様にお会いした様に懐かしく拝見いたしました。出席できず残念です。

加藤益次(昭10年卒) 残念ですが、丁度日本画院の秋季展があり新宿のセンタービル朝日ギャラリーに出品することに追われ本当に申し訳ありません。楽しく会報読ませていただいております。益々鷹桜東京支部の御発展をお祈りいたします。

三浦あさ子(昭12年卒) 会報ありがとうございます。卒業して半世紀もたちましたのに、秋のお便りと共に思い出を楽しませていただきました。よいお集を。

五十嵐文夫(昭15年卒) 小生只今居合道錬士六段として後進の指導にあたっており、土日はそれに専念しておりますので残念ながら出席できません。盛會を祈っております。

菅英一(昭17年卒) 事務局の方々毎年御苦勞様です。前回は地域の会合と重なり参加できませんでした。本年も重なり残念です。会のご盛會と皆様の御多幸をお祈りいたします。また、次回の会報を楽しみに待っております。

田割しづ(昭17年卒) 出席できず残念です。太平洋戦争のまっただなか、18才で教員となり、空白の時代はありましたが、通年40余年の教員生活を続けてきました。しかし65才で終止符をうちました。現在は家庭に入りましたが、当日は姪の娘の結婚式のため残念です。盛大な同窓会がありますように。

宮崎鐵雄(昭20年卒) 昔の友達が無性に懐かしく想う年頃となってしまった。昨秋中学を出て45年ぶりでの上の山のクラス会に出席、川村・鈴木先生とも会いしみじみしたのを感じました。貴會のお誘いにもかかわらず出そびれておりまし

たが一度若い仲間の人達の輪に入ってみようかと考えています。その節はよろしくお願ひします。

北八千代(昭20年卒) 御無沙汰しております。会報を繰り返し読ませていただきました。久しく帰っておりませんので白鷹山をなつかしく思いました。山河は変わりませんね。戦争のまっただ中でしたが、グランドの桜並木、目に浮びます。あの当時の先生方の消息を知りたいものです。20年10月卒業の皆様によりしくお伝え下さい。

荒木よし子(昭21年卒) 昨秋久し振りの墓参の後長井へ行きました。だんだん街並みがきれいになりびっくりしました。東京にいらっしゃる同期の方々とは年一度位お目にかかり在学中の物のないことなど思い出話をして旧交をあたためております。

池田徹也(昭23年卒) 私にとって長中は結果的に半年の疎開留学になってしまいました。しかし都會育ちの15才の少年にとって当時の長井は異郷そのもの。同級生の暖かい友情なくしては今日の良き想い出もなかったでしょう。言うならば、今様の海外留学以上の体験と知識を授ったと思っています。諸兄の御活躍を心からお祈りいたします。

永井辰雄(昭24年卒) 残念ですが学会出張のため欠席いたします。同窓生ご一同のご健勝を心からお祈りいたします。

大黒幸子(昭27年卒) 当日秋田にて趣味活動のコーラス結成40周年記念コンサートがあり残念です。盛會をお祈りいたします。

中川喜平(昭28年卒) 所用のため欠席いたします。10月13日、28年卒の同期会を新宿で開きます。御盛會をお祈りいたします。

風見琴子(昭28年卒) 会報をいつもお送りいただきふるさとを肌で感じる思いで読ませていただいております。出席できずに残念ですが今後共よろしくお願ひいたします。

土屋年彦(昭28年卒) 嫁に出した娘家族と嫁をとった長男家族三家族初めての合同旅行を計画した当日にあたり大変残念です。次回の参加を楽しみにしております。

佐竹きみ(昭29年卒) 今年は久しぶりに故郷の山、学校等を素通りでながめて来ました。長井の街も古い良き時代と近代建築が入りまじってすっかり変身しましたね。

下総采子(昭30年卒) 御連絡ありがとうございます。なつかしい皆様とお会いしたいと思いますのですが、あいにく当日は現職校での地域運動会にあたっていますので残念ながら欠席いたします。皆様によろしくお伝え下さい。またの日を楽しみに。

門瀬澄子(昭30年卒) この9月母が亡くなりました。海外から帰国し8年間長井に在住しました。この間、多くの皆様にお世話になった事でしょう。この場をお借りして御礼申し上げます。ますます素晴らしい会の発展をお祈りいたします。

芳賀文治(昭30年卒) ご案内誠に嬉しく拝見いたしました。誠に残念ですが、当日予定が入っており都合がつかず欠席させていただきます。私事で恐縮ですが9年間都の教育行政に携わり、今年4月武蔵野市立第一中学校長として着任いたしました。これも皆様方の御支援の賜と感謝し、職責を自覚し努力する覚悟です。鷹桜会のご盛会をお祈りします。

菅野晴子(昭31年卒) 31年卒の私達は8月17日にはぎ苑で同期会がありまして、なつかしい先生方及び皆様にお会いすることができました。今回は残念ながら欠席させていただきます。御盛会をお祈り申し上げます。

柏谷久子(昭33年卒) ここ数年欠席で会報を楽しみにしています。今年の表紙の写真に郷愁を誘われました。

大道寺秀一(昭35年卒) 10月20日は北欧での海外取材中で出席できませんが、機会があったら一度参加したいと思えます。皆様によろしく。

新野ヤス(昭36年卒) いつも御連絡いただきありがとうございます。知っている方の写真がのっていると、ただただ懐かしく昔を思い出します。これからもよろしく願いいたします。

荒生保男(昭37年卒) 平素から格段の御指導を賜り誠にありがとうございます。誠に勝手ながら総会当日は3年に一度開催の市遺族会の追悼式典が挙行されますので、その責任担当となっている関係で欠席いたします。

秋山智子(昭41年卒) 会報と御案内ありがとうございます。皆様の御活躍ぶりや懐かしい方々の御写真や文章に接することが楽しみです。これからもよろしく願いいたします。

佐藤さち子(昭42年卒) 同窓会の御案内、会報ありがとうございます。勤務先の中学校からヘトヘトになって帰宅し、思いがけず懐かしい長井高校の文字でいっぺんに疲れが吹きとんでし

まいりました。まさに元気の出るクスリでした。いつの日かゆとりができて同窓会に参加できる日を楽しみにしております。

塩森真知子(昭44年卒) 今年こそ出席しようと思っておりましたが、親類の結婚式がありますので大変残念ですが欠席させていただきます。

島崎栄一(昭47年卒) 東京にいる間には是非一度参加して同年輩の友に出会えればと願います。結婚式出席のため残念です。

井澤小一(昭45年卒) 会報をいつも楽しみにしております。懐かしい故郷の写真がいつも表紙を飾り、郷愁を誘われます。同窓会に出席したいのですが、なかなか都合がつかず失礼いたします。

池田妙子(昭45年卒) 首都圏に転居して4年目です。このような会があることを知り皆様の御活躍も知りとてもうれしく思います。

竹俣典子(昭50年卒) 主人の海外勤務によりジャカルタに転居いたしました。

加納隆子(昭54年卒) 会報をお送りいただきありがとうございます。総会も出席したいのですが、まだ子供が小さいため今のところ無理で残念に思っております。今後共よろしく願いいたします。

児玉明雄(昭53年卒) 初めて会報の中で同窓生(佐藤和佳子さん)を見つけ卒業当時の彼女の笑顔が見えるようでした。元気ですよ。私も元気です。13年ぶりですか。

編集委員より 今回も皆様から数多くのお便りをいただきありがとうございます。一つ一つのメッセージにいろいろな人生と想いが感じられました。児玉明雄さんのメッセージには思わず微笑んでしまいました。

このコーナーがより以上に皆様にとって交遊の機会となることも心から祈っております。次回も今回以上の多くのメッセージを心からお願いいたします。

◇ 事務局からのお知らせ ◇

(1) 活動報告

平成 3 年 9 月 16 日 平成 3 年度総会準備のため坂本キミ子さん (昭 35 年卒) の御厚意により、四ツ谷の中央リサーチセンター事務所をお借りし、3200 通の総会案内状と会報の発送を行った。今回の担当学年は昭 27 年卒と 37 年卒の方々。

3 年 10 月 20 日 平成 3 年度、東京鷹桜同窓会総会を昨年と同様、銀座“高松”にて開催。新入会員 21 名を含め 118 名の参加があった。

本部からは寺嶋副会長と伊佐沢支部長の竹田氏、母校からは草壁校長と菅原先生 (本部事務局長) が出席された。

3 年 12 月 5 日 忘年会を兼ねて、総会の慰労と反省会を、六本木の「露天」で行った。

担当学年と編集委員も含め 24 名が集った。

年々、新卒生が参加されるようになり、合わせて若い方達の参加も増え、バランスのとれた総会になってきている。

4 年 3 月 11 日 役員・事務局会議を上屋法律事務所にて行った。

学年幹事会及び総会の日程について協議。

又、2 月 1 日に本部に於て、支部長会議が開催され、高橋会長も出席の予定だったが、大雪の為特急電車が不通となり、やむなく欠席との報告があった。

4 月 23 日 本部にて、同窓会総会の打合わせ会に高橋会長出席。

6 月 17 日 学年幹事会を銀座のリクルートコスモス社の会議室にて行った。

平成 4 年度の総会の日時・場所・会費の件について協議した。さらに、新入会員の参加費の有料化についても話し合われた。

7 月 16 日 編集会議を上屋法律事務所に於て行い「会報 No. 11」について話し合い、頁ごとの担当者、依頼者を決め、8 月 20 日原稿〆切、9 月中旬に印刷上りのスケジュールで出来上る予定。

(2) 平成 3 年度 会計報告

(平成 4 年 3 月 31 日現在)

< 収入 >		< 支出 >	
前年度繰越金	967,278	総会費	869,498
事務費 (683 口)	683,000	事務費	127,758
総会費	678,000	会議費	601,708
幹事会費	324,000	会報印刷	121,700
祝儀	95,000	渉外費	55,428
助成金 (本部より)	10,000	通信費	334,891
雑収入	30,000	計	2,110,983 円 (B)
受取利息	15,466		
計	2,802,744 円 (A)		

(A) - (B) = 691,761 円 … 次期繰越金

(会計 末吉暁子)

編集後記 残暑というより猛暑の日々が続きましたが、9 月の声を聞くと共にようやく秋の気配が感じられる今日この頃となりました。

今回も多くの皆さんの心からの御協力をいただき同窓会報を刊行する事ができました。ありがとうございました。

本年は我々の故郷山形にて国体が開かれるのを機に、表紙の写真にも掲載のように 7 月に山形新幹線が開通するなど、全国的に山形が注目を集めている年でもあります。

平成不況などと、経済情勢は芳しくない状況ですが、こんな時こそ同窓生の結集力が心強くなると思います。今後共よろしく願います。

今、強い想いを込め、「その先の東京鷹桜会へ」
(遠藤)